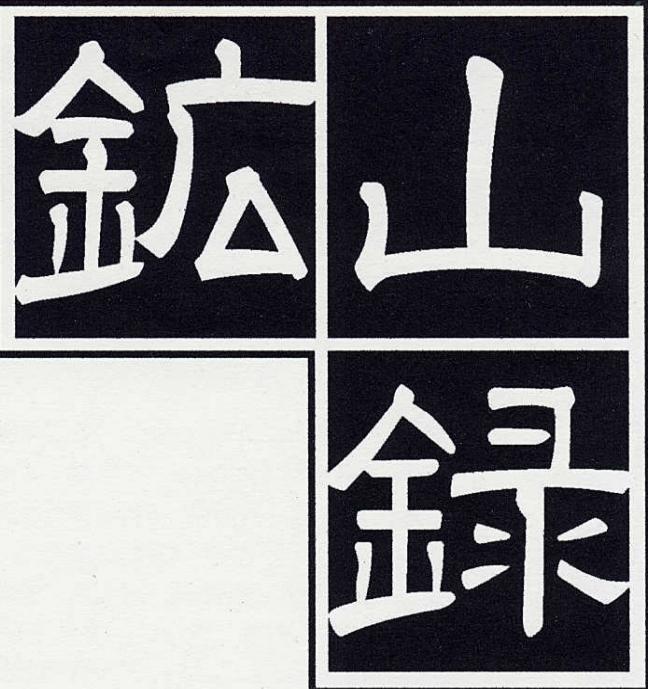


# The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンターふおれすと鉱山  
ニュースレター



## Contents

Vol. 1  
July 2002

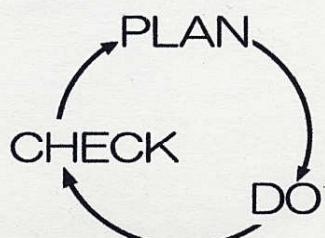
ふおれすと鉱山のもとめるもの ①施設のコンセプト	2
オープンから2ヶ月の活動報告	4
鉱山町の自然	6
リトル・ヴォイス ~リレーエッセイ~	7
ふおれすと鉱山からのお知らせ	8

# ふおれすと鉱山の もとめるもの ①

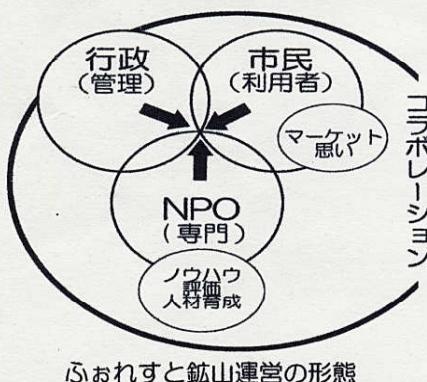
ふおれすと鉱山が目指すネイチャーセンターの姿とは、時間を忘れて自分が学びたいことを好きなだけ学べる空間を提供し、その手助けをすること。そのため興味をひく導入から、より深くまで学べる本体を用意しておくこと。これはふおれすと鉱山が提供するプログラムにも、展示にもいえることです。そして、利用者の要望を常に感じ、ニーズに合わせて形を変えていく、決まった形を取らない運営をしていくこと。「インフォーマルな教育」「永遠の未完成」の2つこそがふおれすと鉱山のコンセプトです。

## ①永遠の未完成

登別市ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」は、永遠に未完成の施設を大きなコンセプトとしています。利用者のニーズに敏感に対応し、フレキシブルに姿を変えていきます。また、行なったことを常に評価し、見直しながら次の活動に活かします。



評価・実行のスパイラル



## ②コラボレーション

登別市によって建てられたネイチャーセンターですが、運営に関わっているのが登別市単体ではないということも大きな特徴の一つです。ふおれすと鉱山では、登別市と、専門能力を持つNPO(NPO法人ねおす)、そして市民の3者が協働して運営を進めています。コラボレーションによる新しい施設のあり方を模索し、よりよい施設を目指します。

## ③オーダーメイドのプログラム

ふおれすと鉱山の大きな特徴は、その時だけ、その場所だけのプログラムをつくれること。利用者の要望をよく聞いて、他の所では体験できない一期一会のプログラムを用意します。ねらいとストーリーがしっかりと定まったプログラムは、大きな印象を伴って心に残ります。



## ④インフォーマルな教育

インフォーマルな教育とはなんでしょう。私たちは、学校のようにカリキュラム(教育課程)に従って時間割をつくり、問題に対して答えを教える形の教育の仕方を「フォーマルな教育」と呼んでいます。それに対して「インフォーマルな教育」とは、カリキュラムのない自発的な学習をサポートする教育のこと指します。

子どもたちが、集中力の続く限り学びたいだけ学び、多くの気づきを得るために、私たちは問題に対して答えではなく、その答えを導く過程を重視したプログラムを提供して、子どもたちの探求する気持ちをバックアップします。

## ⑤持続可能な利用と管理

ふれすと鉱山の主役は、施設ではなく自然環境です。壊滅的な環境破壊から再生しつつあるこの鉱山町の自然を、人と自然のふれあい拠点として永続的に活用していくために、ゾーニングに基づいたエリアを設定し、自然環境に対するインパクトを極力軽減した活動を行います。また、利用によって発生した環境への影響をチェックするために、常時自然環境の調査を行い、データを蓄積します。



### まとめ

ふれすと鉱山の運営を計画するにあたり、これらのコンセプトを中心とした活動を行っていくことになりました。鉱山町の自然が、登別の人々とよりよいふれあい活動を行えるように、さまざまな形で活動していきます。

### ふれすと鉱山流

## プログラムのつくりかた

床屋や美容室で、「タレントの〇〇のような髪型にしてください」と頼む人を見かけます。そういう人を見ると、「そりゃ無理でしょ」と思わず言ってしまいそうになるのですが・・・。さすがプロです。理容師さんだと、ヘアデザイナーなどと呼ばれる人は、その一言だけで、一見無謀な要望も満たしつつも、その人に実によく似合う髪型を鮮やかに作り出します・・・。

「ふれすと鉱山」も、そんな「オーダーメイドのプログラム作り」を目指しています。利用者の方から、どんなイメージで自然体験をしたいのかをお聞きした上で、明確な「ねらい」を共有するところから始め、利用者のニーズと、その時期の旬のもの、そしてセンターとしてのメッセージをマッチさせながら、ねらいを達成できるようなプログラムを組み立てていきます。さらにその組み立て方も、「導入→直接体験→まとめ」という「流れ」を常に意識し、単なる体験ではなく、より深い「気づき」や「学び」を促進できるような「きっかけ」作りにこだわっていきたいと考えています。



驚きと発見。センスオブワンダー

確かに、一つ一つオーダーメイドで作り上げていくのは大変かもしれません。しかし、その積み重ねやこだわりを持ちつづけ、それこそ「タレントの〇〇のような自然体験をさせてください」なんて無理難題を言われても、にこやかに答えられるような実力をつけていきたいものです。

上田（プログラムディレクター）

## オープンから2ヶ月の活動報告①

# ふれすと鉱山 60日

4月25日にオープンした「ふれすと鉱山」。たった2ヶ月にもかかわらず、その間に多くの利用がありました。

4月

21日…中庭の整備作業。市民・市職員など、80人が手伝いに来てくださいました。ありがとうございました。

25日…オープン。オープン記念式典。オープニングコンサート、プログラム体験などに130人が参加しました。いよいよスタートです。



April

5月

施設の整備や業務内容の確認など、運営の準備がおおきな仕事です。また、ゴールデンウイーク中の来館者が950人に達するなど、予想もない利用状況に大忙し。

5月

19日…ヨシキリの会の市民探鳥会。雨の中、30人の参加者がバードウォッチングを楽しみました。



25日…自然環境の基礎調査のために鳥の調査の専門員を呼んで調査を行いました。

26日…同じく植物の調査のために、植物の専門家を呼んでの調査を行いました。登別の自然環境は、専門的な調査があまり行われておらず、じっくりと自然のことを調べていかなくてはなりません。

May

6月

いよいよ主催事業も始まります。夏に向けて活動を活発にするため、色々な試行錯誤が行われました。学校の受け入れも本格化します。



7日～9日…自然体験活動指導者養成講座（主催）  
近隣の自然体験活動リーダーを目指す17名が受講しました。

16日…子ども自然教室①（主催）バードウォッチング入門  
この日もあいにくの雨でしたが13人の子どもたちが鳥の見方を勉強しました。

17日…フィールドワーク in 鉱山町①（主催）鉱山の面影めぐり  
かつて大きな町だったこの鉱山町の姿を想像しつつ、自然を探求しました。  
※この日の午後にはセンターを支援するための組織の設立フォーラムが行われました。（詳細は次のページで）

June

# コラボレーション・はじまる

「みんなに声かけて、拾うべ！ やっぱ、人の手で拾うしかねえべや！！」  
4月の始め、オープン前のまだ塞々とした食堂の中で、こんな声があがりました。中庭をこれからどうやって使っていこうか、ということを話していたのですが、センター建設の工事跡に出た大小さまざまな石やガラクタがありにもたくさん散乱しており、かといって物理的に車を入れて整備したり、業者を入れる資金もなく、もうどうにもならない、そんなときに発せられた言葉なのです。

とはいえたオープンもせまっており、時間的余裕もなかったため、半分は「だめでもともと」という気持ちであちこちに電話をしたところ、市の職員はもちろん、市内で活動する様々な団体・NPOから地域のおじさん、お年寄りから幼児まで、実に約80人の大小さまざまな手のひらが集まり、一気にきれいな中庭を作り出すことができました。そのお陰で、今では、美しい芝が敷き詰められ、これもまた手作りのベンチが置かれ、小さな子でも安全に遊べる空間に変わりつつあります。さらに今後は「クライミングボード」なるものを設置し、より多様な「外遊び」ができる空間として利用する計画が立てられています・・・。

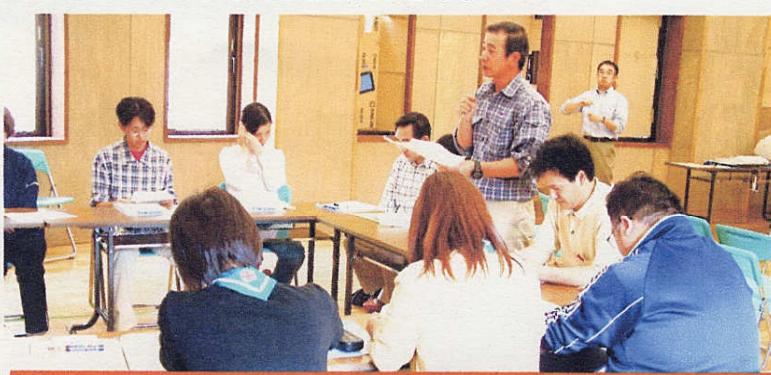
登別市ネイチャーセンター「ふれすと鉱山」の大きなコンセプトとして、「市民・NPO・そして行政とのコラボレーション」があります。一方が他方の上やら下にいる、という関係ではなく、3者が丸く円を作って「協働作業」をしながら運営していく、ということなのですが、上記のエピソードはまさに「コラボレーション」という言葉にふさわしいものであったなあ、と感じています。



みんなで中庭の石拾い。(4月21日)

しかし、まだ行政から市民の方々への「お願い 手伝って」という「甘え」という雰囲気が残っています。いつまでも甘えてはいけないでしょうし、また市民の方々が「声をかけてもらえるまで待ってる」というのも依存的です。そこで、より持続的なパートナーシップを作り出すべく、6月16日、各市民団体の有志によって「ふれすと鉱山支援組織（通称ももんがクラブ）」が設立されました。具体的な事はこれからですが、「ふれすと鉱山」各事業への人的バックアップはもちろん、施設を含めた鉱山町というエリアをより効果的に、楽しく活用できるような仕組みづくりや人材づくりをしていく、さらに、単なる「ボランティアガイドクラブ」ではなく、「自然案内人・指導者養成」や「ももんがクラブ主催の事業展開」などを進める、「より主体的なボランティア組織」を目指そうという話し合いが熱くなされました。

これから、ますます「ふれすと鉱山」の認知度が高まることが予想されます。そんな大きな期待に対し、市民・NPO・行政のそれぞれの得意技を集結させた「コラボ・パワー」で答えていくよう、より一層努力を積み上げていきたい、と考えております。  
上田



モモンガくらぶ設立(6月16日)

鉱山町の昔の写真を見たとき、山に木が一本もない姿を見て驚きました。鉱山が最盛期だったころ、山肌が削られて土が露出していた山々は、今は緑に包まれて何もなかったように青々としています。

人間の生活は自然を必要としていて、時折どうしようもなく自然を痛めつけてしまうけれども、どんなにひどいことになっても彼らは彼らのペースでもとに戻っていきます。それはきっと世界のどこの自然でも変わらないのでしょうか。場所によってはなかなか回復しない自然に、僕らは不安になってしまいます。しかし、この営みは、人間が生まれるずっと前からそうだったのでしょうし、人間が地上から消え去っても変わらないのでしょうか。

山が切り開かれ、川には毒が流されて誰もいなくなったように寂しくなった場所にもいつからか木が生えて動物たちが子育てをしています。そんな鉱山町の今の姿を見ると、自然が持つ本当の力はきっと私たちが思っているものと違って、搖るがない大きな川のよう



なものなのだと感じます。その流れの中では、私たち人間の与える影響などほんのささいなものにすぎないのかもしれません。地球生命40億年の歴史の中で、数々の環境の大激変を乗り越えてきた生命というシステム、それをとりまく環境。すべてを包括する宇宙の次元。そこにある大きな流れを感じることができたら、自然のもっと大きな姿が見えるようになる気がします。

檜山知弘 (art director)



## お化粧、イケてる？

-マタタビの葉っぱのひみつ-

えんどうめぐみの  
森のひみつシリーズ①

山々には緑がしげり、鉱山町にもいよいよ夏がやってきました。

そんな緑色の葉っぱの中にときおり白い葉っぱが見られます。お化粧したような白い葉っぱを持つそのお方の名は、「ねこに・・・」で有名なマタタビです。

なぜこの時期には葉っぱが白くなるのでしょうか？じつは未だなぞに包まれてはいるのですが、ひとつ有力な説として、花がつぼみの頃から葉が白く変色し花が終わると白変も消えるので、虫を呼ぶための目印になるという説があります。どうやら「お化粧している」という表現もまんざらウケではなさそうです。ちなみにミヤママタタビは、葉っぱがピンク色に色づきます。



ところで、マタタビには、めしへのない「雄花」とよく発達しためしへと多くのおしへ（偽の花粉が入っている）を持った「両性花」の花をもつ株があります。この、実のならない不穏の「偽の花粉」の存在は、役に立っているのでしょうか？虫によって受粉が行われるマタタビには、何種かのマルハナバチがやってきて、偽の花粉も本物の花粉も区別しないで集めていきます。そして「偽の花粉」を集めに両性花にやってきたときに、「本物の花粉」をめしへの上に残していくのです。受精には直接役に立っていない「偽の花粉」の存在は、花粉媒介者をひきつけることにちゃんと役立っているのです。

葉っぱが白変することも、偽の花粉を持つことも、マタタビ的にはちゃんと意味があるのですね。植物は、植物同士だけではなく、様々なものと関わって、そこに存在するのです。

それはさておき、「偽の花粉」のおかげで受精に成功した成果物、マタタビの実は、果実酒にするととてもおいしくなりますよ。秋がたのしみですね。

# リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

## みんなで子どもを育てましょうということかな…

宮本 英樹

コラボレーション? かっこいいから使っている。そう、はやりだから使っているだけで、実のところほんとはよく分かってはいない。

何かを作り出そうとするときの僕のポリシーは「すべては自分の中にある」だ。情報やシステムは既に僕等自身の中にあり、それをうまく取り出し、くっつけられるかが創造力だと考えている。だから人のやっていることや、よそでやっていることにはあまり興味がない。その地域や自分の中にあるものをうまくとりだし、再構築するのが好きだ。

長野オリンピック、北海道勢のメダルラッシュ。それを生み出したもの。それはちょっと前までは、どこにでもあった北海道らしい地域教育である。お父さんもお母さんも、近所のおじさんも先生も一緒にになってリンクに水をまく、あるいはスキーコースをつくる。大会にはみんなで応援に行く。相互扶助的で「みんなで子どもを育てる」みたいな教育。これが僕等の中にある信じてもいいすぐれた教育システムだと思う。だからメダルが取れたのだと。

小学校のときに「原始キャンプ」という教育委員会主催のキャンプに参加した。今から思うと職員や周りの大人たちの技術や知識もお粗末で、結構悲惨なキャンプだった。(あれじゃあ火はつかないでしょう)でもそんなキャンプが心に残っている。それは、大人たちが僕らのために一生懸命準備をしたり、手伝ってくれる態度に感動し、安心感を得たからだと思う。

みんなで相互に学習を助け合う。そんな昔ながらの北海道らしい教育環境を取り戻したい。そしてそんなおとのな態度こそが子どもたちに影響を与えると信じている。



今、もっとも注目を集める新進気鋭のコーディネーター、プランナー、教育者。彼の手によって次々と生み出される施設、プログラム、教育手法は新しくもどこか懐かしい。NPO 法人ねおす理事。ふおれすと鉱山コーディネーター。道産子。(著者自筆)



### オススメ BOOKS from STAFF

だいぶ前に買った本なのですが、昨年度この「ふおれすと鉱山」に勤務することが決まって、期待と不安にさいなまれていた頃、夜の小学校の職員室で何気なく読み返したら、思わずずっぽりはまってしまいました。この本は山梨県の清里から日本中に環境教育のウェーブを巻き起こした、キープ協会・川嶋直(かわしまだだし)氏のこれまでの軌跡です。いよいよ登別で新しい仕事を始めるんだ、というぼくにとってはあまりにも「沁みる」一文・一文字が多く、なんだかきゅうーっと胸をしめつけられるような気持ちになりながら読んだ記憶があります。「自然体験型環境教育」の手法やその根底に流れるメッセージの大切さ、そしてこれからのはくたちに必要なマインドが、いかにも直さんらしい平易な表現で綴られています。ああ、一生懸命頑張らんといかんなあ…。(U)

# EVENT INFORMATIONS

## 冒険キャンプ・サマーチャレンジ

今年もアドベンチャー！ ちょっとワイルドな2泊3日のキャンプです。自然の懐に抱かれてその大きさを感じたり、ちょっと味わってみたり。宝物のような思い出をひとつプレゼントします。

日時：7月26日（金）13:30集合～28日（日）14:30解散

場所：ふおれすと鉱山 対象：小学校5年生～中学校2年生

定員：30名 費用：2000円（食材・教材費）

服装：ジャージなど、活動的な服装・靴・帽子

持ち物：洗面入浴道具、着替え、寝袋、軍手、タオル、食器、ゴミ袋、水筒、雨具（カッパ）、上靴、ザック、食材（米4合、ジャガイモ、にんじん、たまねぎ一つずつ）

あると便利な物：スリーピングマット、虫よけ、おやつ

### 指導者ステップアップ講習②

## 魚の見方・楽しみ方講習

幌別川にはどんな魚が住んでいるのでしょうか。

実際に魚を捕まえながら川や魚についての理解を深めていきます。

日時：8月18日 費用：無料

対象：登別市および近隣の市町村で、教育に携わる方

または「自然」「環境」「教育」に興味のある方

定員：20名 講師：桑原 穎知（映像クリエイター）

### ネイチャーセンターより

お持ちの写真や絵をネイチャーセンターに展示しませんか？場所を作つてお待ちしています。

大きさは四つ切程度のもの。額装はお願いいたします。展示料は無料ですが、応募者数によって展示期間を決めさせていただきます。詳細はお問い合わせください。

イベントのお問い合わせ・お申し込みは  
「ふおれすと鉱山」TEL0143-85-2569 Fax0143-81-5808まで

### ふおれすと鉱山利用のご案内

開館：9:00～17:30分 入場料：無料

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は、翌日が休館となります）

工作室・図書室は自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。



### EDITOR'S LOUNGE

仕事の手を休めてふと窓の外を見ると満月がぽっかり浮かんでいました。こんな夜は木漏れ日ならぬ木漏れ月光を見たくなります。「夏は夜。月のころはさらなり」なんて、昔の人は良く言ったものですね。月夜は切なく更けていきます。

### おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」vol.1

発行：2002年7月

発行所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号：0143-85-2569 FAX:0143-81-5808

E-Mail : kouzan@pluto.plala.or.jp

URL:www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm